

専門領域別研究発表 | 専門領域別：体育科教育学

■ 2023年9月1日(金) 10:00 ~ 11:19 | 会場 RY201 良心館2階 R Y 2 0 1 番教室

体育科教育学／口頭発表①

座長：梅澤 秋久（横浜国立大学）、加登本 仁（安田女子大学）

10:00 ~ 10:15

[11教-口-01] 保健体育におけるトランスジェンダーが求める配慮・対応
当事者の経験に着目して

*大城 葵¹、濱本 想子² (1. 那覇市立小緑中学校、2. 公立大学法人名城大学)

10:16 ~ 10:31

[11教-口-02] ジェンダー平等社会における学校体育の在り方に関する研究
それは「ジェンダー平等な体育」か、あるいは、「男女平等な体育か」

*佐野 信子¹ (1. 立教大学 スポーツウエルネス学部 スポーツウエルネス学科)

10:32 ~ 10:47

[11教-口-03] 体育における外国人保護者の関与の促進を目指した教師教育プログラムの開発
アンドラゴジー理論を用いた効果の検証

*戸村 貴史¹、古田 映布¹、片岡 千恵²、佐藤 貴弘² (1. 筑波大学大学院、2. 筑波大学)

10:48 ~ 11:03

[11教-口-04] 外国人児童の文化的背景に配慮した体育指導のためのオンライン教師教育プログラムの開発

*古田 映布¹、戸村 貴史¹、池下 桃佳¹、東浦 勇馬¹、片岡 千恵²、佐藤 貴弘² (1. 筑波大学大学院、2. 筑波大学)

体育科教育学／口頭発表①

座長：梅澤 秋久（横浜国立大学）、加登本 仁（安田女子大学）

2023年9月1日(金) 10:00 ～ 11:19 RY201 (良心館2階 R Y 2 0 1 番教室)

10:00 ～ 10:15

[11教-口-01]保健体育におけるトランスジェンダーが求める配慮・対応

当事者の経験に着目して

*大城 葵¹、濱本 想子² (1. 那覇市立小緑中学校、2. 公立大学法人名城大学)

本研究では、18歳以上のトランスジェンダー(MtF、FtM、Xジェンダー)を対象に、保健体育授業での「うれしかった配慮・対応」「不快な経験」「求めている配慮・対応」について調査し、これからの保健体育授業に必要な配慮・対応を検討することを目的とした。匿名式 Web アンケート調査を行い、小学校から高校までの保健体育授業での経験について選択式及び自由記述で回答を求めた。得られたデータは、クロス集計とテキスト分析を行った。アンケート回答数は、28件であった。集計の結果、うれしかった配慮・対応があったとの回答は少なく、半数以上のトランスジェンダーが保健体育授業で不快な経験をしたことがあると回答していた。また、自由記述の分析結果より、保健授業でのうれしかった配慮・対応として、ジェンダーについての特別講義を通し、自分の在り方を学んだことなどが挙げられた。一方、不快な経験として男女別習で授業を行うことで自身の身体的性を自覚してしまうことに対する不快感が多かった。体育授業でのうれしかった配慮・対応としては、実技に代わってレポート等の代替措置や別室での着替え対応などが挙げられた。保健授業と比較して、うれしかった配慮・対応に関する記述が多かった。一方、不快な経験としては男女別での整列や水泳授業に関する記載が多かった。そして、これからの保健体育の両授業で必要な配慮・対応としては、①教師の LGBTQ+ に関する知識・認識の向上、②ジェンダー・ステレオタイプの発言を行わないこと、③当事者が配慮・対応を求めやすい環境をつくることなどが挙げられた。保健授業では、①男女共習でヒトの体に起こる現象の教授、②多様な性の取り上げ、③人権的アプローチに基づいた包括的セクシュアリティ教育の取り入れが挙げられた。体育授業では、①性自認を尊重した種目選択、②当事者にあった更衣室の整備、③水着や体操服の選択の自由が挙げられた。

体育科教育学／口頭発表①

座長：梅澤 秋久（横浜国立大学）、加登本 仁（安田女子大学）

2023年9月1日(金) 10:00 ～ 11:19 RY201 (良心館2階 R Y 2 0 1 番教室)

10:16 ～ 10:31

[11教-口-02]ジェンダー平等社会における学校体育の在り方に関する研究

それは「ジェンダー平等な体育」か、あるいは、「男女平等な体育か」

*佐野 信子¹ (1. 立教大学 スポーツウエルネス学部 スポーツウエルネス学科)

「ジェンダー最後の砦」と言われたスポーツ・体育領域でも、オリンピックなどの高度な競技会における、一定基準をクリアしたトランスジェンダー女性（MtF）の参加の容認や、また、学校体育における男女共修・共習といった変化がみられる。本研究者は、長らく「体育・スポーツとジェンダー」に関する研究に従事しており、特に学校体育については、中学校期と高等学校期の在り方に焦点を絞り、質的また量的データを検討し、様々な角度から報告をしてきた。

上記の研究の過程において、学校現場の教職員との対話、また、「学校体育とジェンダー」に関する学会等での学際的な場においても、「ジェンダー」を「男女」と読み替えてしまう「誤解（失敗）」に陥ってしまう様子を、残念ながら、少なからず確認してきた。さらに、現在を生きる大学生からの報告からは、未だ、「男女別修体育」が少なからず横行している。さらには、教員が「ジェンダー平等な体育」を標榜していながら、その実は、生徒達を戸籍上の「女性」か「男性」に二分し、「性別二元性（男女二元論）の体育」が「当たり前」のこととして実践され、「女性」は「男性」に比べて、体育、スポーツ場面で劣っているとの錯覚を植え付けかねない、いわば、ジェンダー、バイアスを深めることに繋がる体育授業の危うさも散見できる。

我が国においても、様々な領域で性別二元性からの脱却を希求し、その実現に向けての、研究や実践の蓄積がされてきている。しかし、以上のように、スポーツ・体育は、やはり最後まで、ジェンダー平等の獲得に失敗しており、歪んだ形での「男女平等」を追求（追究）しているように、本研究者にはみえる。

本研究では、現在、我が国における喫緊の課題である「学校体育におけるジェンダー平等」を、その理念から検討し、真に求められている「ジェンダー平等な体育」の在り方について、質的、量的データを紹介しながら論じることを試みる。

専門領域別研究発表 | 専門領域別 | 体育科教育学

体育科教育学／口頭発表①

座長：梅澤 秋久（横浜国立大学）、加登本 仁（安田女子大学）

2023年9月1日(金) 10:00 ～ 11:19 RY201 (良心館2階 R Y 2 0 1 番教室)

10:32 ～ 10:47

[11教-口-03]体育における外国人保護者の関与の促進を目指した教師教育プログラムの開発

アンドラゴジー理論を用いた効果の検証

*戸村 貴史¹、古田 映布¹、片岡 千恵²、佐藤 貴弘² (1. 筑波大学大学院、2. 筑波大学)

近年、日本の公立小学校においては、外国人児童の増加に伴って人種や言語、文化、宗教等の多様な背景を有する子どもに対応した指導が求められている。とりわけ体育においては、文化や宗教に関わる指導上の配慮や健康管理等の安全対策を徹底するためにも、我が子の教育的ニーズについて理解する外国人児童の保護者の関与が不可欠である。発表者はこれまで、小学校教員が体育における外国人保護者の関与を促す中で、その言語や文化、社会的規範の違い、貧困、就労状況、偏見といった複雑化した問題に直面していることを明らかにした（戸村ほか、2020）。外国人保護者の教育的な関与が不十分な場合、体育において外国人児童が身体的・心理的・社会的に不利益を被り、学習面で困難な状況に陥る可能性がある。これらの問題を解決するためには、教員として必要な知識とスキルを習得するための教師教育の確立が求められる。そこで本研究は、アンドラゴジー理論（Knowles、1989）を枠組みとして、発表者が開発した体育における外国人保護者の関与の促進を目指した問題解決型のオンライン教師教育プログラムにおける小学校教員の学習経験を明らかにし、プログラムの効果を検証することを目的とした。半構造化面接法による質的研究を用いて、9名の公立小学校教員を対象にデータを収集した。継続的比較分析法による分析の結果、外国人保護者の関与についての理論的な知識や他の教員の実践経験を学ぶことにより、問題解決を中心とした自己主導的な学習が推進されたことが示された。また、その中で外国人保護者に対する偏見やステレオタイプが低減されたことが示唆された。本結果は、小学校教員が外国人保護者の関与を促進するための有効な教師教育の手段や方法、教員が学ぶ必要のある知識やスキルの内容を提示するものであり、新たな視点から今後の体育における教師教育の充実・発展に寄与することが期待される。

専門領域別研究発表 | 専門領域別 | 体育科教育学

体育科教育学／口頭発表①

座長：梅澤 秋久（横浜国立大学）、加登本 仁（安田女子大学）

2023年9月1日(金) 10:00 ～ 11:19 RY201 (良心館2階 R Y 2 0 1 番教室)

10:48 ～ 11:03

[11教-口-04]外国人児童の文化的背景に配慮した体育指導のためのオンライン教師教育プログラムの開発

*古田 映布¹、戸村 貴史¹、池下 桃佳¹、東浦 勇馬¹、片岡 千恵²、佐藤 貴弘² (1. 筑波大学大学院、2. 筑波大学)

日本ではグローバル化の進展に伴い、学校教育において外国人児童生徒等が今後一層増加することが予想される。保健体育に関わっては、外国人児童生徒等に対する暴力やハラスメント等の問題も存在し、その背景には言語の問題だけでなく、人種差別、貧困、文化適応など、様々な状況が複雑に絡み合っていることが指摘されている。そうした中で、体育および保健の学習の特質を活かしながら、インクルーシブ教育の視点から学習指導の改善、充実が強く求められている。本研究では、より早期からインクルーシブな教育環境で相互理解などの社会性を育むために、小学校体育に焦点を当てて、まずは日本語を母語としない外国人児童に対する指導において小学校教師が抱える課題を明らかにした。ポジショニング理論をもとに公立小学校教師7名を対象として半構造化面接法にて調査した結果、宗教および文化的な背景による水泳時の水着着用の問題、断食時の身体運動の問題、体操着などの服装の問題、健康的な食生活に関わる問題などが解決されるべき課題として見出された。次に、これらの課題解決を目指し、外国人児童を含めたインクルーシブ体育に向けたオンライン教師教育プログラムを開発し、その有効性を検証した。オンライン教師教育プログラムはアンドラゴジー理論を枠組みとして作成し、8名の小学校教師を研究対象とした。半構造化面接法により調査・分析した結果、宗教や文化に対する正しい知識によって教師が持つ外国人児童指導に対する抵抗感が減少することや、批判的思考を重視したケーススタディを用いることにより外国人児童の指導における課題解決が促進された。そして、これらの知見をもとに、体育科・保健体育科教育のインクルーシブ教育に向けたオンライン教師教育プログラムの改善案を提案する。